

飯田女子短期大学紀要 第37集, 99-118, 2020

実践報告

幼稚園・保育所・認定こども園の 安全管理の実態に基づいた支援活動

田中住幸・宮下幸子・中本貴規・能條 歩*

Support Activities Based on the Actual Conditions of Safety Management at
Kindergartens, Nursery Schools, and Certified Children's Schools

Sumiyuki TANAKA, Sachiko MIYASHITA, Takanori NAKAMOTO and Ayumu Nojo*

要旨：2018年2月に長野県高森町で発生した、園外での保育中に幼児が死亡した事故を契機に、飯田女子短期大学では、南信州地域（特に飯田、下伊那地域）の幼稚園・保育所・認定こども園（以下、各園）における屋外保育の安全管理に対する各種支援活動に取り組みはじめた。同時に各園を対象に安全管理に関する実態調査を行った。実態調査の結果からは、危険予知、回避・コントロールよりも、対策重視である保育現場の実状を垣間見ることができ、保育の安全性の向上、保育者が抱える安全管理に関する不安や困りごとの解消、保護者との連携といった側面において、危険予知や回避・コントロールといった視点を充実させていくことが、今後の保育現場の課題として示唆された。

Key words：安全教育 (Safety education), 危険予知 (Risk prediction), 自然保育 (Nursery in nature)

はじめに

保育所保育指針¹⁾では、第3章健康及び安全、環境及び衛生管理並びに安全管理の事故防止及び安全対策において、「保育中の事故防止のために、子どもの心身の状態等を踏まえつつ、施設内外の安全点検に努め（後略）」とされ、教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン²⁾においても、事故の発生防止に関する留意点として、「子どもの特性を十分に理解した上で、事故の発生防止に係る行動や事故に発展する可能性のある問題点を把握する」ことがあげられている。保育中の事故を防ぐためには、子どもの様子を把握し、行動を予測すると共に、周辺の環境に注意を払い、

事故につながる危険要因を予知し、回避・コントロールしていくことが最も重要な点となる。一方で、厚生労働省が、2015年に都道府県や政令指定都市・中核市など計126自治体を対象に実施した教育・保育施設等の事故防止のためのガイドライン等に関するアンケートによると、事業所向けの独自の事故予防ガイドラインをまとめていると回答した自治体は23%で、管下保育所等に対して「事故予防」に関する研修会を主催していると回答した自治体は41%であった³⁾。このように、事故予防には、危険要因の予知、回避・コントロールが重要であることが国の指針として示されているにも関わらず、自治体レベルでの事故予防ガイドラインの整備や事故予防に関する研修会の実施率は低い。

2020年3月18日受付；2020年5月13日受理

*北海道教育大学岩見沢校環境教育学研究室教授

2018年2月に長野県高森町で発生した、園外での保育中に幼児が倒れた墓石の下敷きになり死亡した事故（以下、高森町での事故）について、高森町保育所事故検証委員会（2019）は、「無謀で無計画な園外保育の在り方そのものが、事故の原因」とし、安全の視点を持って、保育計画の作成や実行、環境改善などに取り組んでいくことが、同様の事故の再発防止策であると提言をまとめている⁴⁾。

また、長野県では、2015年度より「信州型自然保育認定制度（以下、信州やまほいく）」の運用が開始されている⁵⁾。この制度は、県内の幼稚園や保育所、認定こども園などが行う自然保育の実践を県が認定する制度である。同制度は、「保育等に自然保育を積極的に取り入れることにより、子どもの自然の恵みに対する感謝の気持ちを醸成するとともに、子どもが本来持っている自ら学び、成長しようとする力を育むこと」を基本理念としている⁶⁾。制度開始より認定数が増加傾向にあり、2015年度は72園、2016年度は111園、2017年度は152園、2018年度は185園、2019年度には、長野県内の幼稚園や保育所、認定こども園の総数の約3割にあたる計210園が認定を受けている。

今後も信州やまほいくの認定を受ける園は増加していき、長野県内では自然保育が盛んになっていくことが予想される。しかしながら、身近で発生した高森町での事故の経験から、屋外や園外を中心に行われる自然保育の安全面について多くの保育者が不安を抱えていることも予想できる。すなわち、保育者の危険予知、回避・コントロール能力を向上させることが、重大事故防止のために不可欠であると共に、自然保育を推進していく上でも喫緊の課題となる。

本稿では、高森町での事故を契機に、飯田女子短期大学で取り組み始めた南信州（特に飯田・下伊那）地域の幼稚園・保育所・認定こども園（以下、各園）における屋外保育の

安全管理に対しての各種支援活動（「安全管理ブックレット」の寄贈、出前講座の実施）について報告すると共に、各園に協力を依頼して行った安全管理に関する実態調査の結果を示し、考察をまとめる。

安全管理に対する支援活動

1. 安全管理ブックレットの寄贈

身近な里山での活動（自然保育や森のようちえん活動）をテーマに、保育者や自然体験活動指導者を対象に、安全管理の3ステージである、危険予知、回避・コントロール、対策についての基礎的な理論を解説すると共に危険予知トレーニング（以下、KYT）やケガの対処シミュレーションシナリオなどの実習教材を掲載した「安全管理ブックレット」（図1・2）^{注1）7)}を出版し、南信州地域の各園（計100園）に寄贈した^{注2)}。同時に、ブックレットについての感想、各園の安全管理について尋ねるアンケートへの協力も依頼した。結果については、後述する。

も く じ	
はじめに	02
第1章 安全を管理する～危険はなくせない	
01 リスクマネジメントの3ステージ…予知・回避・対策	06
02 リスクマネジメントの2段階制御法…発生確率と被害度を念頭に	11
03 ヒューマンエラーを招く心理特性 …正常性バイアス・多数派同調性バイアス・認知不協和理論	15
04 組織で対応する安全管理…安全管理者の設置と役割分担	19
05 自然災害への心構えと中止基準の設定	22
第2章 シナリオ（事故事例）で学ぶ安全管理	
01 あなたにもできるKYT…予知と回避のトレーニング	26
02 シナリオトレーニング…場面を想定した対策と応急手当の流れ	33
第3章 安全管理のチェックポイント	
01 集団の安全度を高めるセーフティトーク …トークすべきポイント（年齢や活動に則した具体例）	54
02 スタッフ間共有のための実践計画書（アクティビティシート）づくり	62
03 安全管理のための下見	66
04 緊急時の対応…DOTSとSAMPLE、救急車を呼ぶべき事案	72
付録 安全管理マニュアルの事例 「KYTをやってみよう」答え合わせ トレーニング用シナリオのシミュレーション例	79
おわりに	90
COLUMNS	
01 リスクマネジメントから安全教育へ	24
02 シナリオ作りとふりかえり	52
03 安全への意識を高めるワークショップ～逆転授業法～	78

図1 ブックレット目次

2. 出前講座の実施

2018年度より飯田女子短期大学生涯学習センター（現：地域連携センター）の出前講座として、「保育の安全対策講座」をメニューに加えた。講師は、筆者の一人田中が務めた。主に、各園での職員研修での利用を想定して2～3時間程度で、安全管理の基礎的な理論を解説した後、子どもと森の中を散策している場面や、広場で遊んでいる場面などのイラストを用いて小グループにわかれて行うKYTやセーフティートーク（安全に関する説明）の実習を行った。利用した園からは、「危険予知・回避・対策や研修で学びえた応急手当などを再確認し合いながら、自然豊かな秋を楽しみたい。」などの感想があった。出前講座の利用園（所）及び受講者数は、表1の通りである。

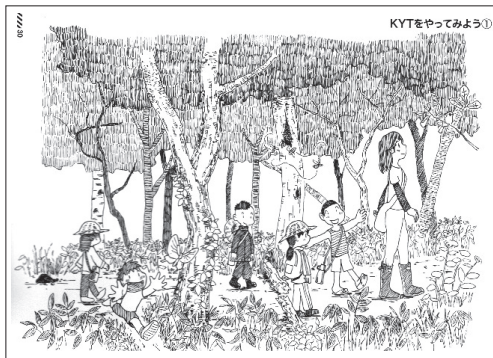


図2 危険予知トレーニングイラスト

3. 保育に関わる人のための安全対策講座

2019年度には、長野県地域発元気づくり支援金活用事業として、「保育に関わる人のための安全対策講座（以下、安全対策講座）」を開催した。同講座は、危険予知編と応急手当編の2種類での構成とした。

危険予知編は、先述の「安全管理ブックレット」をテキストに使用し、安全管理の基礎理論や安全管理マニュアル作成手順の解説、KYT、セーフティートーク実習を行った。先に報告した出前講座が、園や市町村単位での申し込みにより開催されるのに対し、本講座は飯田女子短期大学が主催者となり申し込みを受け付け開催したため、保育者個人や保護者、保育ボランティアを希望する市民が気軽に参加できる形となった。また、危険予知編については、飯田女子短期大学の他、高森町や阿智村などでも開催したことで、広く飯田・下伊那地域から受講者を募ることができた。受講者からは、「危険予知、予防についての方が対策より大事だという感覚が現場にまだないような気がするので、今日はいい勉強になりました。」などの感想があった。

応急手当編では、安全管理の3ステージの3番目にあたる対策の一部として、米国MEDIC First Aid International, Inc.⁸⁾により開発された、小児応急手当を体系的に習得することを目的とした講習、チャイルドケアプラスコースTM（注2）を実施した。この講習

表1 出前講座「保育の安全対策講座」利用園（所）及び受講者数

平成31年度	
利用園（所）	受講者数
飯田市保育所全体研修	115名
高森町保育所	36名
計	151名

令和元年度	
利用園（所）	受講者数
高森町保育所	10名
伊那市市保育所ブロック研修	31名
松川町保育所全体研修	60名
飯田市保育所	40名
宮田村保育所	65名
計	206名

には、応急手当プロバイダーとしての心構えや二次災害の予防についての確認、全年齢(乳児・小児・成人)の心肺蘇生法やAEDの使用法、出血やショックのコントロール、ヤケド、切断、ぜんそくの発作、アナフィラキシーショック、暑熱・寒冷障害などについての解説、手技訓練が含まれている。インストラクターは、筆者の一人田中が務めた。各園の保育者をはじめ、信州やまほいくの特化型認定を受けている園の保育者らの受講があり、受講者からは「人数もちょうど良く、しっかり実践ができました。今後は、以前より自信をもって応急手当をしたいと思います。」といった感想があった。安全対策講座の受講者数については表2に示す。

各園の安全管理に関する実態調査

1. 目的

「安全管理ブックレット」の出版において、筆者らは自然体験活動に特化する形で、内容を構成し、執筆に取り組んだ。小学校就学前の幼児を対象に、日常的な保育活動の中で、地域の自然環境や生活文化を活用し行われる自然保育と、青少年を対象に、自然の中で行われるキャンプ、ハイキング、スキー、カヌーといった野外活動や自然・環境学習活動、創作・芸術活動などを含んだ自然体験活動には、森や川、里山など身近な自然の中で行われることが多いこと、作る・見る・触る・食

べるなどの直接体験を伴う形で行われることや、教育活動としての目的を持って実践されること、実践にあたっては保育者(指導者)が存在することなど、共通する部分が多くある。一方で、通常自然体験活動は非日常の取り組みとして行われることが多く、長野県における各園での自然保育のように、日常の保育からの連続性を持った実践の場合とは、活動を構成する諸条件が異なる。そのため、実施フィールドや時間、組織体制などについては、通常自然体験活動とは違う視点で、危険要因の洗い出し、ヒヤリハット・事故事例の収集、安全管理体制の構築などの取り組みが必要になる。そういった、自然体験活動にはあまりみられない自然保育特有の情報を得ることを目的に、自然保育での安全対策について、特に屋外での保育活動に焦点をあてて実態調査を行った。

2. 方法

1) 調査対象園

南信州地域の信州やまほいく認定園及び飯田・下伊那地域の幼稚園・保育所・認定こども園 計100園(表3)

2) 調査期間

2019年1月10日～2月28日

3) 調査方法

調査対象園に対して調査用紙を郵送した(回収率43%)。

表2 「保育に関わる人のための安全対策講座」受講者数

危険予知編	
会場(開催月)	受講者数
高森町会場(令和元年7月開催)	15名
阿智村会場(令和元年8月開催)	42名
飯田市会場(令和元年8月開催)	40名
計	97名

応急手当編	
開催月	受講者数
令和元年9月開催	7名
令和元年10月開催	9名
令和元年11月開催	4名
令和2年1月開催	8名
令和2年2月開催	5名
計	33名

4) 調査内容 (別途, 資料参照)

- ・回答者の属性
- ・「安全管理ブックレット」について
- ・保育の安全管理について

5) その他

- ①回答は, 個人や園が特定されることなく統計的に処理すること, 任意のものであることを調査用紙の表紙に記載して協力を依頼した。
- ②調査用紙は, 「安全管理ブックレット」を各園に寄贈 (郵送) する際に同封した。

3. 結果

1) 回答者の属性

回答者の総数は43名であった。所属園の種類, 性別, 年代, 園での役職は, 図3～6に示す。また, 回答があった43園中, 22園が信州やまほいくの認定園 (2019年1月現在) であった。

2) 安全管理ブックレットについて

各園に寄贈した「安全管理ブックレット」についての感想を尋ねた。ほとんどの回答者が「すべて読んだ (17名, 40.5%)」, 「少し

表3 調査対象園

園の種類	1. 幼稚園 (私立)	2. 幼稚園 (公立)	3. 保育所 (私立)	4. 保育所 (公立)	5. 認定こども園 (私立)	6. 認可外	計
配布数 (園)	2	1	21	66	7	3	100
回収数 (園)	2	0	10	24	4	3	43
回収率 (%)	100	0	47.6	36.4	57.1	100	43.0

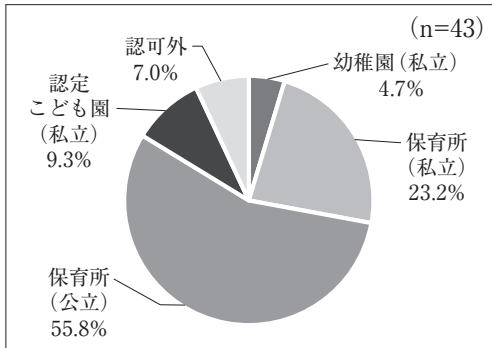


図3 所属園の種類

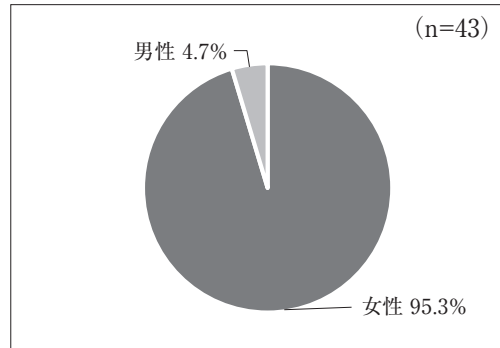


図4 性別

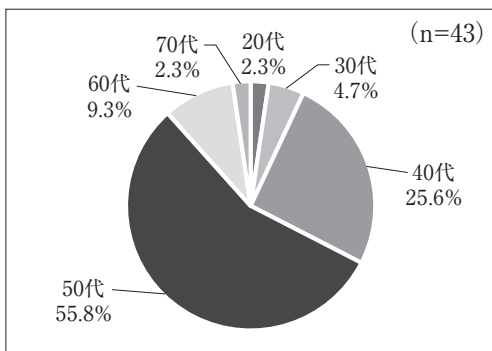


図5 年代

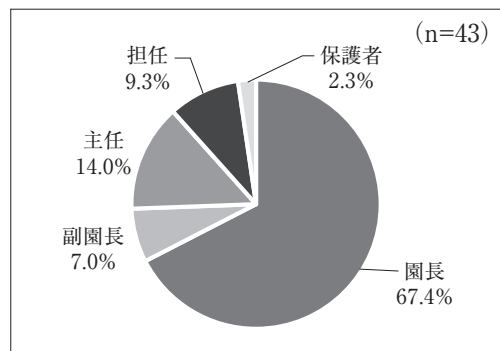


図6 園での役割

読んだ(24名, 55.9%)」と回答し, 39名(90.7%)の回答者が「読みやすかった」と回答した。また, 41名(95.3%)の回答者から, ブックレットの内容は保育に活用できるものであるとの回答があった。なお, これまでに類似した内容の書籍を読んだことがあるかについての質問では, 約半数の回答者が「ない(22名, 51.2%)」と回答した(図7)。

さらに, 「安全管理ブックレット」の内容について, 既知っている・実践しているものであるか(質問12)を確認したところ, 「第3章-03安全管理のための下見(23名, 53.5%)」, 「第3章-04緊急時の対応(19名, 44.2%)」が, 既知っている・実践している内容として選択される割合が高かった(図8)。一方で, 今後実践したい・詳しく知りたい内容であるかについて(質問13)は「第1章-05自然災害・中止基準の設定(21名, 48.9%)」や「第2章-01あなたにもできるKYT(21名, 48.9%)」, 「第2章-02シナリオトレーニング(22名, 51.2%)」が選択される割合が高かった(図9)。

3) 保育の安全管理について

保育中の子どもや自分自身, 他の保育者が事故やケガに遭いそうになるというヒヤリハット経験については, 40名(93.0%)の回答者が年に数回以上「ある」と回答し(図10), 保育中に通院や入院が必要になる事故

やケガの発生場面に遭遇した経験については37名(86.0%)の回答者が「ある」, 救急搬送を必要とする事故やケガ, 急病の発生場面に遭遇した経験については23名(53.5%)の回答者が「ある」と回答した。さらに, 保育の安全管理について33名(76.7%)の回答者が困っていることや不安に思っていることが「ある」と回答した(図11)。

困っていることや不安に思っていることについての具体例としては, 「思考に個人差がある中, リスクをリスクと気づいてもらうことが, 難しい時がある。」, 「山での危険生物との遭遇(クマ, ヘビ, ハチなど)」, 「自園が(ハザードマップ上の)レッドゾーンに入っており, 水害の危険性が非常に高いということ」, 「ヒヤリハット, ハザードマップがなかなかうまく活用できない。」といった記述があった。これらの記述について, KH Coder⁹⁾

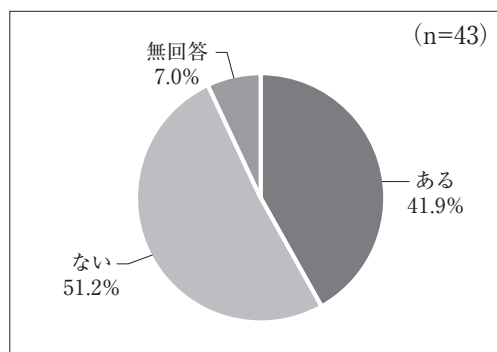


図7 自然体験活動の安全管理についての書籍を読んだ経験

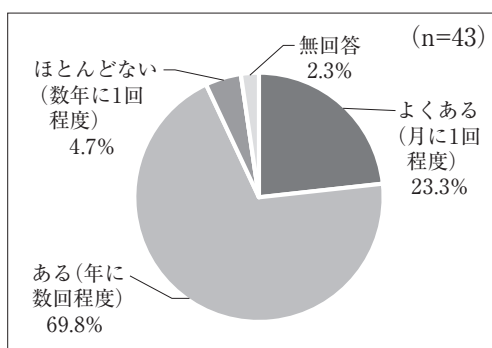


図10 保育中に、ヒヤリハットした経験

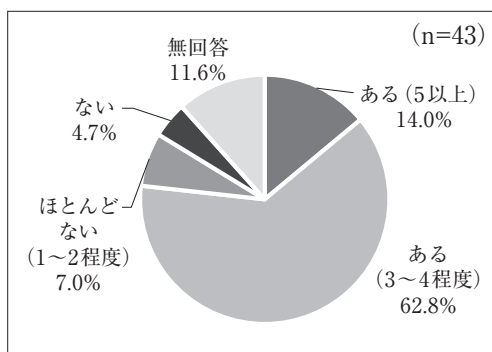


図11 保育の安全管理に関する事で困っていることや不安に思っていること

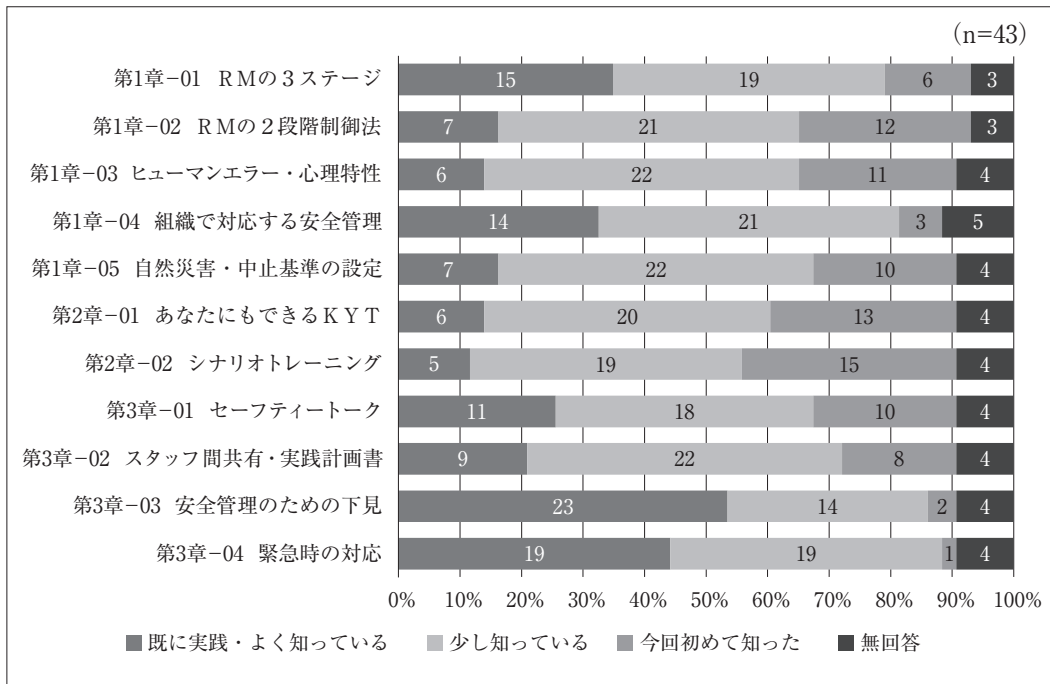


図8 (質問12) ブックレットの内容について、既に実践している・よく知っている内容

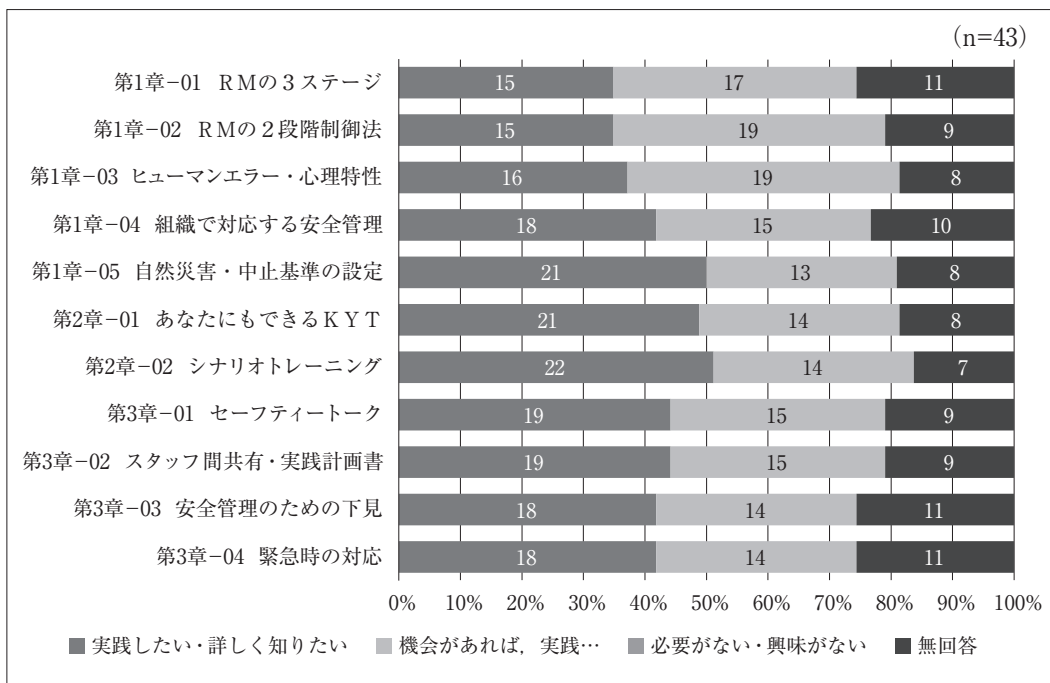


図9 (質問13) ブックレットの内容について、今後実践したいと思う・詳しく知りたいと思う内容

を用いて共起ネットワーク図（図12）を作成し、記述された文章（単語のみの場合も複数の文章の場合も含む）から得られる「困っていることや不安に思っていること」の状況を検討した。なお、この共起関係の分析は、回答者ごとの回答欄に記述された文章を集計単位としたものである。したがって、分析結果は「個人の回答ごとの共起関係」を示している。分析の前に、記述された文章を確認し、「保育者・保育士・職員（保育所では、保育士のことを職員と呼ぶことが多い）」及び「園外保育・園外活動」は、同義語としてそれぞれ「保育者」、「園外保育」に統一した。ネットワーク図は、共起関係が強い語ほど、点線

→実線→太い実線として結ばれる。また、出現回数が多い語ほど、プロットが大きくなる。分析は、最小出現数を5とし、共起関係は「語—語」のJaccard係数の上位60語を選択、図の共起関係を単純化するために最小スパンニングツリーのみを表示させる設定とした。更に、サブグラフ検出を用いて、結びつきの強い語を色分けしてグループに分けたところ、5つのグループに分けられた。また、グループを構成する語及び、語が含まれる記述を確認し、それぞれをA「保育者・安全・子ども・意識・考える」などで構成される【子どもの安全を考える意識】、B「対応・園外保育」などで構成される【迫られる対応】、C「事故・ケガへの不安」などで構成される【事故・ケガへの不安】、D「感じる・起こる・場合」などで構成される【様々なケース】、E「リスク・気づく・自分」などで構成される【リスクへの気づき】

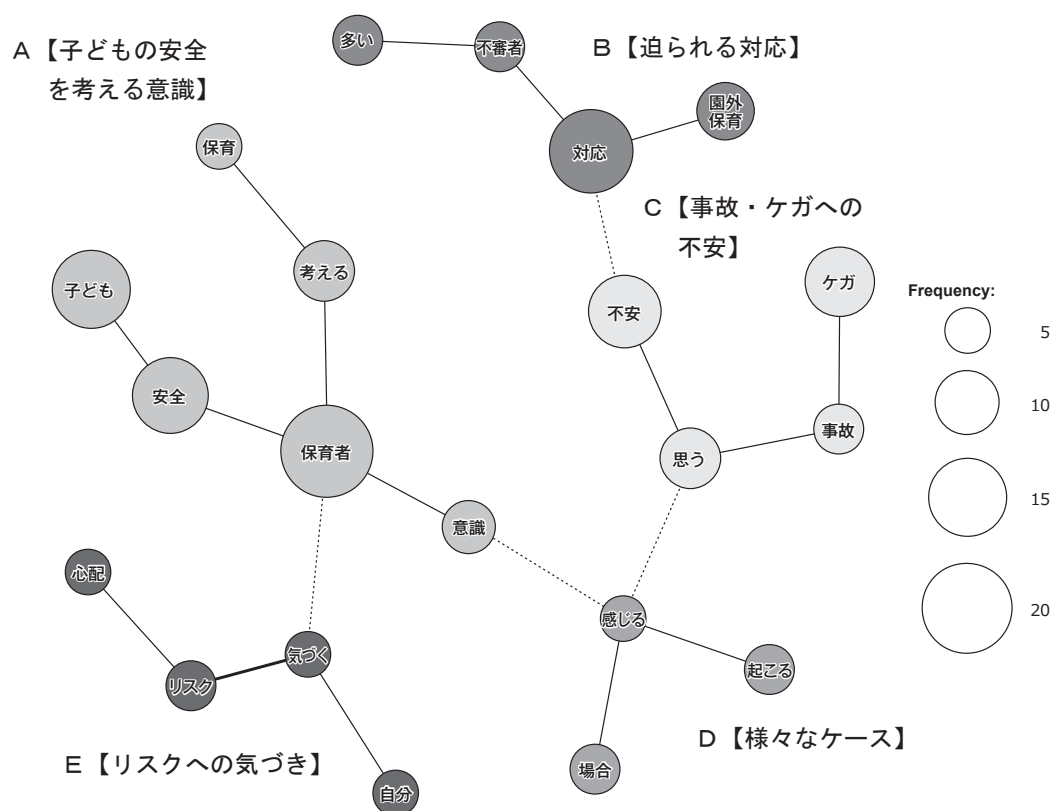


図12 保育の安全管理について、困っていることや不安に思っていることについての共起ネットワーク図（色分けは、サブグラフ検出によるグループ分け）

対応】、C「不安・ケガ・事故・思う」などで構成される【事故・ケガへの不安】、D「場合・起こる・感じる」などで構成される【様々なケース】、E「リスク・心配・気づく」などで構成される【リスクへの気づき】とラベリングした。これら5つのグループを概観すると、Aは「保育者」に対して、「安全」や「考える」「意識」といった語が結びついており、常に保育者に求められる意識を示すものと考えられる。続いて、Bでは「対応」に「園外保育」や「不審者」が結びつき、Cでは「事故」や「ケガ」と「不安」が結びつき、Dでは「起こる」や「場合」といった事故を想起させるような語の結びつきが確認された。このことは、保育者らが感じている漠然とした事故やケガに対する不安感や、いざという時に対する責任の重さが示されたものであると考えられる。また、Eでは「気づく」に対して、「リスク」や「心配」「自分」との結びつきがあった。出現回数は少ないが、危険予知の重要性を認めている回答者からの記述が反映されたものと推察する。

更に、保育の安全管理や事故・災害時の対応について、特に保護者にお願いしていることについては、30名(69.8%)の回答者が「ある」と回答し、その内容については「大きな災害時は、メールや通知がない時も、保護者判断で迎えに来てほしい。」といった災害時の連絡・対応に関することや「通園路は親子で手をつないで歩く、駐車場で遊ばない。」といった登降園時のルールに関することが多かった。また、これまでに受講したことがある安全管理に関する研修内容については、「CPR(心肺蘇生法)やAED(自動体外式除細動器)について(成人／38名, 88.4%・小児／38名, 88.4%)」、「アレルギーの対応・対処について(エピペン®の使用法など)(小児／31名, 72.1%)」、「感染症(インフルエンザやノロウイルスなど)の予防・対処について(小児／31名, 72.1%)」、「身近な病気やケガの対

処方法について(小児／31名, 72.1%)」を選択する回答者が多かった。逆に、今後受講してみたいと思う安全管理の研修について、半数程度の回答者が選択した内容は「危険予知や危険回避について(基本的な安全管理の方法)(19名, 44.2%)」、「安全管理マニュアル、安全管理計画書の作成について(19名, 44.2%)」、「安全管理に関する組織運営について(22名, 51.2%)」であった。半数以上の回答者に選択される内容はなかった。さらに、「保育学生が学生の間に受講する安全管理に関する研修の内容について、特に必要だと思う内容については⇒◎、必要だと思う内容については⇒○、就職してからの受講でも間に合うと思う内容については⇒△、特に保育者としては受講の必要がないと思う内容については⇒×をつけてください。」といった質問について、「必要だと思う」と選択された割合が高かったのは、「CPRやAEDについて(成人／30名, 69.8%)、(小児／30名, 69.8%)」や「危険予知や危険回避について(30名, 69.8%)」であった(図13)。

最後に、園で取り組んでいる安全管理に関する取り組みについて、4段階で自己評価(1. 非常によく取り組んでいる～4. 全く取り組んでいない)してもらった(図14)。選択肢の目安については、例えば「定期的なCPRやAEDの訓練について」では、年に数回取り組んでいれば「非常によく取り組んでいる」、年に一回は「取り組んでいる」、数年に一回は「機会に応じて取り組んでいる」といった形で、それぞれの選択肢における具体的な目安を質問欄に記載した。そうした中、30名(69.8%)以上の回答者が「非常によく取り組んでいる」と回答した項目は、「災害時の避難訓練(33名, 76.7%)」、「園内の危険箇所の確認・対応、職員間での情報共有(30名, 69.8%)」で、半数近くの回答者が非常によく取り組んでいると回答した項目は「園外の危険箇所の確認・対応、職員間での情報共有

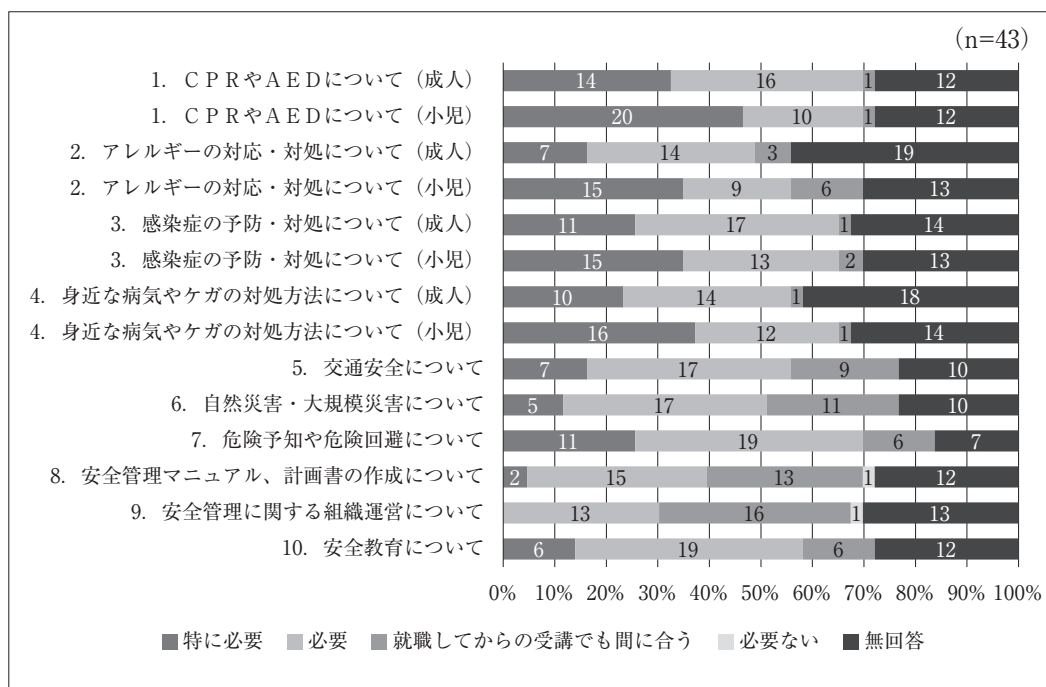


図13 保育学生が学生の間に受講する安全管理に関する研修の内容について

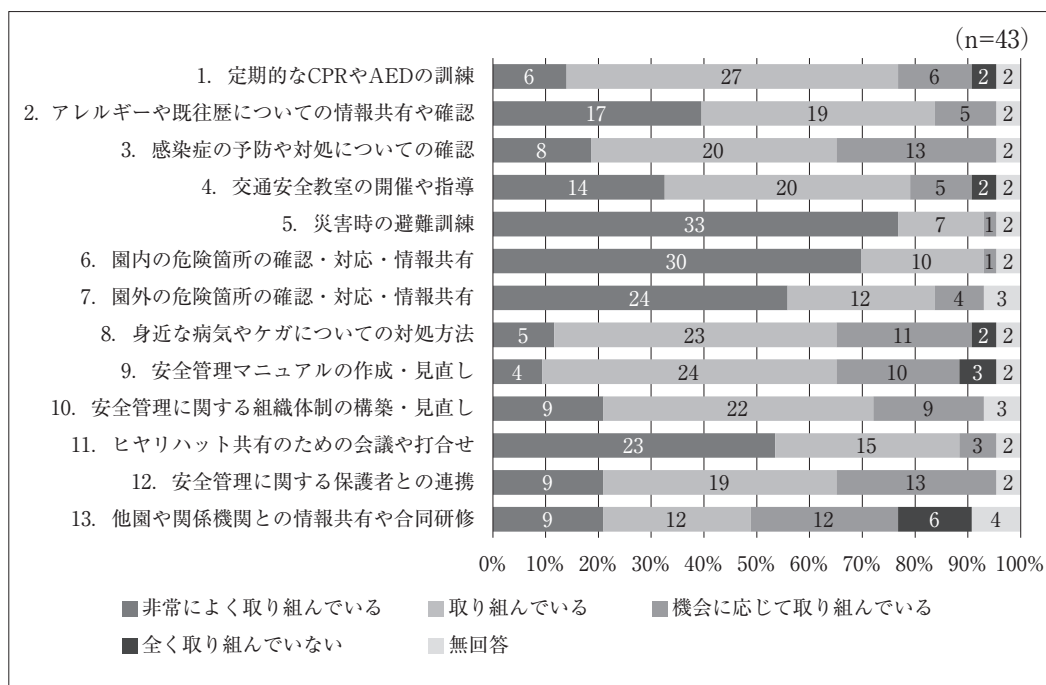


図14 各園の安全管理に対する取り組みについての自己評価

(24名, 55.8%)」, 「ヒヤリハット共有のため
の会議や打ち合わせ(23名, 53.0%)」であった。

4. 考察

1) 安全管理ブックレットについて

今回, 各園に寄贈した「安全管理ブックレット」の内容について, 多くの回答者が肯定的にとらえ, 保育に活用できる内容であると感じていることがわかった。一方で, 約半数の回答者が, 類似した内容の書籍を読んだ経験が「ない」と回答したことからは, 保育者向けの同様の書籍があまり普及していないということが推察できる。また, 既に実践している・知っている内容として「安全のための下見」や「緊急時の対応」が多く選択されたことは, 日々の保育実践の中で, 園内でのケガや事故, 災害への対応, 散歩や遠足などの園外保育の際に最低限必要とされる部分であるためと考えられる。逆に, 「自然災害への心構えと中止基準の設定」, 「あなたにもできるKYT」, 「シナリオトレーニング」が今後実践してみたい, よく知りたい内容として選択されたことは, 保育現場ではあまり取り組まれていないことであることを示すと考えられる。特にKYTについては, 全国こども会連合会¹⁰⁾の実践から, 自然体験活動やキャンプ団体に紹介され, 普及してきた経緯があることから, 保育分野にも同様の研究や取り組み^{11) 12)}はあるものの, まだ普及, 発展の余地があると推察できる。また, 「自然災害の心構えと中止基準の設定」, 「シナリオトレーニング」については, 自然体験活動分野においても他に類を見ない内容で, 筆者らが出版した「安全管理ブックレット」の独自性の強い部分であることが理由と考えられる。

2) 保育の安全管理について

ほとんどの回答者が保育中にヒヤリハット体験や通院や入院が必要になる事故やケガの発生場面に遭遇した経験があると回答している。救急搬送についても, 半数近くの回答者

が経験ありと回答している。回答者の半数近くが, 園長, 副園長などで, 保育者としての経験が長く, 現在では責任ある役職についていることが回答に影響していると考えられるが, 保育者は常に子どものケガや体調の急変, 事故に備えながら, 高い緊張感の下, その職務に従事していることがうかがえる結果であった。さらに, 多くの回答者が保育の安全管理について, 困っていることや不安に思うことがあることがわかった。自由記述から生成した共起ネットワークは, 【子どもの安全を考える意識】【迫られる対応】【ケガ・事故への不安】【様々なケース】【リスクへの気づき】の5つのグループに分けることができた。中でも, 「大勢の子どもを抱え, 女性が多い職場で, 不審者やクマとの遭遇など, 想定外の事態に対して, 咄嗟にどこまで対応できるのか」などといった記述からは, 日常的にたくさん子どもと屋外に出かけることが多い保育者ならではの不安要素を確認することができた。また, 「戸外での活動の際に, スズメバチ, ヘビ, ウルシなど, 山へ入る前に確認をするようにしてはいるものの, 自然のものなので, 山へ入るたびに不安を感じる」といった記述に見られるように, 自然環境の中での偶発的な出来事に対しても不安を感じている保育者の心情も確認できた。保育の安全管理について, 保護者をお願いしていることとして多かったのは「災害時のお迎えや登降園時のルール」についてであった。また, 少数ではあるが「園で事故やヒヤリハットすることが起きた際の情報共有」などをあげる回答もあった。保育中の子どもの安全を守るためには, 園や保育者, 保護者が管理するいわゆる安全管理の側面と, 子どもが自ら安全に対する意識を持って生活していくように促す安全教育との二つの側面が必要となる。そういったことから, 保護者に協力をお願いする際に, 安全管理と安全教育の二つの側面を持たせていくことが望まれる。

また、これまでに受講経験のある安全管理に関する研修では、「CPRやAEDについて」、「アレルギーの対応・対処について」、「感染症の予防・対処について」、「身近な病気やケガの対処方法について」を選択する回答者が多かった。すぐさま生命の危機に関係する被害度の高い事柄や発生頻度の高い事柄への対策について、一定程度の訓練経験があると推察できる。一方で、今後受講してみたいと思う研修に、「危険予知や危険回避について」、「安全管理マニュアル、安全管理計画書の作成について」、「安全管理に関する組織運営について」を選択する回答者が多かったことから、危険予知や回避・コントロールに関する訓練経験が不足していることが示唆された。また、学生の中に受講する研修内容について、「CPRやAEDについて」と「危険予知や危険回避について」を選択する割合が高かったことから、基礎的な知識・技能として、危険予知、回避・コントロール、対策について学生時代に習得すべきであると考えている保育者が多いことがわかった。また、各園の安全管理に関する取り組みについての自己評価では、「災害時の避難訓練」や「園内の危険箇所の確認・対応、職員間での情報共有」が非常によく取り組んでいる項目としてあげられている。続いて「園外の危険箇所の確認・対応、職員間での情報共有」、「ヒヤリハット共有のための会議や打ち合わせ」があげられ、安全管理の3ステージである、危険予知、回避・コントロール、対策に照らして確認してみると、対策に関係する項目が多いといえる。先に述べた受講経験のある研修の内容も対策に関係する事柄が多かった。もちろん、事故やケガ、急病が発生した際に、真っ先に対応にあたるのは保育者であるので、対策に関係する研修や取り組みが必要であることは確認するまでもない。しかし、事故やケガを未然に防いでいくためには、予知や回避・コントロールの取り組みが必要不可欠で、保育の安

全性の向上、保育者が抱える安全管理に関する不安や困りごとの解消、保護者との連携といった側面において、危険予知や回避・コントロールといった視点を充実させていくことが、今後の保育現場の課題の一つであろう。

まとめ

本稿で報告した南信州地域の各園における屋外保育の安全管理に対しての各種支援（「安全管理ブックレット」の寄贈、出前講座の実施など）や、各園の安全管理に関する実態調査は、高森町での事故を契機に行うこととなった。本来であれば、実態調査を行い、保育現場に必要な安全管理に関する研修内容を検討し、数回の試行を重ねた後、一般化を目指してブックレットを編集、出版するといった流れがスムーズであるが、今回は出来ることから取り掛かることにした。幸いにも筆者らに自然体験活動の十分な経験と知識があり、それらを保育現場に転用していく形での取り組みができたため、地域の緊急の課題に対しての取り組みとして、一定の目的を達成できたのではないかと評価している。また、実態調査の結果からは、危険予知、回避・コントロールよりも、対策重視である保育現場の実状を垣間見ることができた。保育所や認定こども園は、その施設の性質上、朝早くから夕方まで子どもが生活をしており、幼稚園でも預かり保育が行われているので、同じような状況であると考えられる。保育現場の限られた時間の中で、園外保育の下見や準備、研修に時間を割くのは容易なことではないことが想像できるため、最低限必要なこととして対策を中心にした取り組みになるのは頷ける点である。ただし、安全管理は、危険予知、回避・コントロール、対策の3つのステージから構成され、危険予知の部分が最も大切であり原因を予測できない限り、回避やコントロール、対策はできないということを踏まえる必要がある。

また、本活動の今後の展望としては、出前講座や安全対策講座の実施を継続し、直接的に保育者に関わりながら支援していくとともに、新たなKYTやシミュレーショントレーニング教材を開発し、各園に提供することなどを通して、保育者らが独自に危険予知、回避・コントロール、対策能力を高めるための機会を設けることが考えられる。今回の実態調査で明らかになった点を参考にしながら、安心・安全な保育実践、自然保育の普及に寄与していくために、各種支援活動を継続していきたい。

注

- 注1) 2018年10月30日に出版された、キャンプや登山など本格的な野外活動を想定した類書は多いものの、身近な里山での活動を想定したものは少ないため、自然体験活動指導者をはじめ、森のようちえんの指導者、自然保育を始めようとする保育者を対象にまとめた。単行本92ページ、ISBN-10:4990594363、ISBN-13:978-4990594367。
- 注2) 「安全管理ブックレット」の保育所・幼稚園・認定こども園への寄贈は、2018年度飯田女子短期大学学術研究等助成を受けて行った。
- 注3) 「チャイルドケアプラスTM・コース」は、CPR、AED、ファーストエイドのガイドライン2015に準拠し、米国では保育者に課せられている応急手当の基準を満たしている。また、信州やまほいく認定制度の特化型認定を受ける際の要件としても採用されている。これらのことから、日本の保育施設においても、事故や病気から子どもを守るための情報として大いに有益であると考えられる。

文 献

- 1) 厚生労働省. “保育所保育指針”.
[〈https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000160000.pdf〉](https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000160000.pdf)
 (令和2年2月18日).
- 2) 平成27年度教育・保育施設等の事故防止のためのガイドライン等に関する調査研究事業検討委員会. “教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン【事故防止のための取組み】～施設・事業者向け～”.
[〈https://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/meeting/kyoiku_hoiku/pdf/guideline1.pdf〉](https://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/meeting/kyoiku_hoiku/pdf/guideline1.pdf)
 (令和2年2月18日).
- 3) 厚生労働省. “教育・保育施設等の事故防止のためのガイドライン等に関するアンケート自治体向け調査結果”.
[〈https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/jititai.pdf〉](https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/jititai.pdf)
 (令和2年2月18日).
- 4) 高森町 保育所事故検証委員会. “高森町立保育園において発生した死亡事故の検証等に関する報告書”.
[〈http://www.town.nagano-takamori.lg.jp/material/files/group/7/houkoku.pdf〉](http://www.town.nagano-takamori.lg.jp/material/files/group/7/houkoku.pdf)
 (令和2年2月18日).
- 5) 長野県. “信州やまほいく(信州型自然保育)認定制度”.
[〈https://www.pref.nagano.lg.jp/kodomo-katei/kyoiku/kodomo/shisaku/shizenhoiku-ninteiseido.html〉](https://www.pref.nagano.lg.jp/kodomo-katei/kyoiku/kodomo/shisaku/shizenhoiku-ninteiseido.html)
 (令和2年2月18日).
- 6) 長野県. “信州型自然保育認定制度 実施要綱”.
[〈https://www.pref.nagano.lg.jp/kodomo-katei/kyoiku/kodomo/shisaku/documents/h30jisshiyoukou.pdf〉](https://www.pref.nagano.lg.jp/kodomo-katei/kyoiku/kodomo/shisaku/documents/h30jisshiyoukou.pdf)
 (令和2年2月18日).

- 7) 能條歩・田中住幸：自然体験教育ブックレット③「とぎすまそう！安全への感覚～里山活動でのリスク管理」(能條歩編), NPO法人北海道自然体験活動サポートセンター, 北海道, 2018.
- 8) MFAジャパン株式会社. MFA JAPANの歴史.
〈<https://www.mfa-japan.com/company/history.shtml>〉(令和2年2月18日)
- 9) 樋口耕一：社会調査のための計量テキスト分析, ナカニシヤ出版, 京都, 2014.
- 10) 全国子ども会連合会：みつけたキケンくん こうしてすすめよう！子ども会KYT2, 全国子ども会連合会, 東京, 1995.
- 11) 田中哲郎：保育における危険予知トレーニング, 日本小児医事出版社, 東京, 2019.
- 12) 東 知之・大野木 裕明他：子どもの事故防止に関するヒヤリハット体験の共有化と教材開発 保育・幼児教育の現職者と実習大学生のキャリア発達から, 福村出版, 東京, 2017.

謝 辞

アンケート調査にご協力いただいた長野県内の幼稚園, 保育所, 認定こども園, 自然保育実践園の皆さんに謹んで感謝申し上げます.

資料

＜アンケート調査のお願い＞

飯田女子短期大学幼児教育学科の田中 住幸と申します。現在、「保育者の安全意識向上のための研修カリキュラムの構築」といったテーマで研究活動をすすめております。今回、お送りさせて頂きました『自然体験教育ブックレット③「とぎすまそう！安全への感覚～里山活動でのリスク管理」』もその活動の一部として執筆致しました。

お忙しい中、誠に恐縮ですが、ブックレットについてのご感想及び保育の安全管理についてのアンケート調査にご協力頂きたくお願い致します。

ご記入後は、同封の返信封筒にて平成31年2月28日(木)迄に、ご返信頂けますようお願い致します。

【返送先・連絡先】

〒395-8567 長野県飯田市松尾代田610 飯田女子短期大学幼児教育学科 田中住幸
TEL / 0265-22-4460(代)

【アンケートの記入方法】

①回答は、設問の案内にしたがって、該当する番号に○をつけてください。

② () には、具体的な内容(該当する数字等)をご記入ください。

※回答内容は、統計的に処理をし、研究活動の資料として活用します。園や個人が特定される形で公表することがないことをお約束させて頂きます。

A. 回答者及び所属される園について教えてください。

質問1. あなたが所属する園の種類を教えてください。

- 1.幼稚園（私立） 2.幼稚園（公立） 3.保育所（私立） 4.保育所（公立） 5.認定こども園（公立）
6.認定こども園（私立） 7.その他（ ）

質問2. 性別を教えてください。 1.女性 2.男性

質問3. 年齢を教えてください。 1.20代 2.30代 3.40代 4.50代 5.60代 6.70代

質問4. あなたが所属する園でのあなたの役割を教えてください。

- 1.園長 2.副園長 3.主任 4.担任 5.副担任 6.フリー 7.その他（ ）

質問5. あなたが所属する園は、信州やまほいくの認定を受けていますか？（平成31年1月1日現在）

- 1.受けている（普及型） 2.受けている（特化型） 3.受けていない 4.わからない

質問6. あなたが所属する園は、どれぐらいの頻度で屋外（園内）で遊びますか？

- 1.週に15時間以上 2.週に10時間程度 3.週に5時間程度 4.週に1時間程度
5.屋外（園内）ではほとんど遊ばない

質問7. あなたが所属する園は、どれぐらいの頻度で屋外（園外）で遊びますか？

- 1.週に15時間以上 2.週に10時間程度 3.週に5時間程度 4.週に1時間程度
5.屋外（園外）ではほとんど遊ばない

B. 今回お送りした、自然体験教育ブックレット③「とぎすまそう！安全への感覚～里山活動でのリスク管理」（以下、ブックレットとします。）について教えてください。

質問8. ブックレットは、お読みになりましたか？ 1.すべて読んだ 2.少し読んだ 3.読んでいない

（ブックレットを未だ読まれていない方は、C＜質問15. ～＞におすすみください。）

質問9. ブックレットは、読みやすかったですか？

- 1.非常にそう思う 2.そう思う 3.そう思わない 4.全くそう思わない

質問10. これまでに同様の内容（自然体験活動の安全管理について）の書籍を読まれたことはありますか？

- 1.ある（ 冊程度） 2.ない

質問11. ブックレットの内容を保育に活用することができますか？（全体的な印象としてお答えください。）

- 1.非常にそう思う 2.そう思う 3.そう思わない 4.全くそう思わない

質問12. ブックレットの内容について、既実践している・よく知っている内容については⇒1、少し知っている内容については⇒2、今回初めて知った内容については⇒3に○をつけてください。

ブックレットの内容（もくじ）	1.既実践・よく知っている	2.少し知っている	3.今回初めて知った
第1章 安全を管理する～危険はなくせない			
01 リスクマネジメントの3ステージ			
02 リスクマネジメントの2段階制御法			
03 ヒューマンエラーを招く心理特性			
04 組織で対応する安全管理			
05 自然災害への心構えと中止基準の設定			
第2章 シナリオ（事故事例）で学ぶ安全管理			
01 あなたにもできるKYT			
02 シナリオトレーニング			
第3章 安全管理のチェックポイント			
01 集団の安全度を高めるセーフティートーク			
02 スタッフ間共有のための実践計画書づくり			
03 安全管理のための下見			
04 緊急時の対応			

質問13. ブックレットの内容について、今後実践したいと思う・詳しく知りたいと思う内容については⇒1、機会があれば実践したい・知りたいと思う内容については⇒2、必要がない・興味がないと思う内容については⇒3に○をつけてください。（質問12. で1に○をつけた内容については回答しないでください。）

ブックレットの内容（もくじ）	1.実践したい・詳しく知りたい	2.機会があれば実践したい・知りたい	3.必要がない・興味がない
第1章 安全を管理する～危険はなくせない			
01 リスクマネジメントの3ステージ			
02 リスクマネジメントの2段階制御法			
03 ヒューマンエラーを招く心理特性			
04 組織で対応する安全管理			
05 自然災害への心構えと中止基準の設定			
第2章 シナリオ（事故事例）で学ぶ安全管理			
01 あなたにもできるKYT			
02 シナリオトレーニング			
第3章 安全管理のチェックポイント			
01 集団の安全度を高めるセーフティートーク			
02 スタッフ間共有のための実践計画書づくり			
03 安全管理のための下見			
04 緊急時の対応			

質問14. ブックレットについてのご感想やご意見などありましたら、自由にお書きください。

C. 保育の安全管理について、教えてください。

質問15. あなたは保育中に、子ども達や自分自身、他の保育者が事故やケガに遭いそうになる、いわゆるヒヤットとする経験をしたことがありますか？

- 1.よくある（月に1回程度） 2.ある（年に数回程度） 3.ほとんどない（数年に1回程度） 4.ない

質問16. あなたはこれまでに、保育中に通院や入院が必要になる事故やケガの発生場面（事故の当事者には、自分自身や子ども、他の保育者等、保育に関わる人全てを含みます。）に遭遇したことがありますか？

- 1.ある（通院が必要だった／____回程度） 2.ある（入院が必要だった／____回程度） 3.ない

質問17. あなたはこれまでに、保育中に救急搬送を必要とする事故やケガ、急病の発生場面（事故の当事者には、自分自身や子ども、他の保育者等、保育に関わる人全てを含みます。）に遭遇したことがありますか？

- 1.ある（____回） 2.ない

質問18. あなたは、保育の安全管理に関することで困っていることや不安に思っていることはありますか？

- 1.たくさんある（5以上） 2.ある（3～4程度） 3.ほとんどない（1～2程度） 4.ない

1～3に○をつけられた方は、どんなことですか？答えられる範囲で教えてください。

質問19. 保育の安全管理や事故・災害時の対応について、あなたが所属する園では、安全管理について特に保護者にお願いしていることはありますか？

- 1.たくさんある（5以上） 2.ある（3～4程度） 3.ほとんどない（1～2程度） 4.ない

1～3に○をつけられた方は、どんなことですか？答えられる範囲で教えてください。

質問20. これまでに受講したことがある、安全管理に関する研修の内容に○をつけてください。(複数回答可)
1～4については、傷病者を成人・小児(乳幼児)のどちらに想定した内容であったかについても回答してください。両方の内容を含んでいた場合は成人・小児両方に○をつけてください。

回答欄	成人	小児	研修の内容
			1. CPR (心肺蘇生法) や AED (自動体外式除細動器) について
			2. アレルギーの対応・対処について (エピペン® の使用方法など)
			3. 感染症 (インフルエンザやノロウイルスなど) の予防・対処について
			4. 身近な病気やケガの対処方法について
			5. 交通安全について
			6. 自然災害・大規模災害について
			7. 危険予知や危険回避について (基本的な安全管理の方法)
			8. 安全管理マニュアル、安全管理計画書の作成について
			9. 安全管理に関する組織運営について
			10. 安全教育について
			11. その他 ()
			12. 特に受講したことがない

質問21. 今後、受講してみたいと思う、安全管理に関する研修の内容に○をつけてください。(複数回答可)
1～4については、傷病者を成人・小児(乳幼児)のどちらに想定した内容のものを受講したいかについても回答してください。両方の内容を受講してみたい場合は成人・小児両方に○をつけてください。

回答欄	成人	小児	研修の内容
			1. CPR (心肺蘇生法) や AED (自動体外式除細動器) について
			2. アレルギーの対応・対処について (エピペン® の使用方法など)
			3. 感染症 (インフルエンザやノロウイルスなど) の予防・対処について
			4. 身近な病気やケガの対処方法について
			5. 交通安全について
			6. 自然災害・大規模災害について
			7. 危険予知や危険回避について (基本的な安全管理の方法)
			8. 安全管理マニュアル、安全管理計画書の作成について
			9. 安全管理に関する組織運営について
			10. 安全教育について
			11. その他 ()
			12. 特に受講したことがない

質問22. 保育者の視点から、保育学生が学生の間に受講する安全管理に関する研修の内容について、特に必要だと思う内容については⇒◎、必要だと思う内容については⇒○、就職してからの受講でも間に合うと思う内容については⇒△、特に保育者としては受講の必要がないと思う内容については⇒×をつけてください。1～4については、傷病者の区分(成人・小児<乳幼児>)についても回答してください。

回答欄	成人	小児	研修の内容
			1. CPR (心肺蘇生法) や AED (自動体外式除細動器) について
			2. アレルギーの対応・対処について (エピペン® の使用方法など)
			3. 感染症 (インフルエンザやノロウイルスなど) の予防・対処について
			4. 身近な病気やケガの対処方法について
			5. 交通安全について
			6. 自然災害・大規模災害について
			7. 危険予知や危険回避について (基本的な安全管理の方法)
			8. 安全管理マニュアル、安全管理計画書の作成について
			9. 安全管理に関する組織運営について
			10. 安全教育について

